

熊本地震により被災された皆さまに
心よりお見舞い申し上げます。
そして、一日も早い復旧・復興を
お祈り申し上げます。

ともに、福祉優先、人間が 目的のまちづくりを!!

社会福祉法人 京都市左京区社会福祉協議会
事務局長 村井喜治

昨年九月から西陣会の監事を仰せつかっています（この原稿を書いているのは、一六年六月です）。西陣会とのおつきあいは、十年余り前に上京区社協の事務局長として赴任してからになります。そんな前になるのか?! と言う思いと、懐かしい思いとが交錯する中で数カ月が過ぎようとしています。いまは、左京区社協で仕事をしており、きらりんクさんには、日常的にお世話になっています。

さて、熊本で大きな地震がありました。振り返ってみると、阪神淡路大震災が二十一年前にあり大惨事となりましたが、その一方で、あります。いまは、左京区社協で仕事をしており、きらりんクさんには、日常的にお世話になっています。

ボランティア元年と言われる程、多くの人々が支援に駆けつけました。また、東日本大震災と福島原発の事故は、現代人の生き方を変えさせてくれたと言つても過言ではないでしよう。西陣会が、いまも東日本の方々の支援に取り組まれ、交流を深めておられることに感謝を受けています。そして、熊本に対しても。

ところで、「一日前のニュースで、iPS細胞を用いて重い目の病気を治療する世界初の臨床研究をすることを、大きく取り上げていま

た。

けれども、先生の言葉は、感動とともに、現代社会のあり方への反省をも促している、と思うのです。経済的利益のためには熾烈な競争をし、人間の生活と福祉充実の手段であるお金が、いつしか重い目的となってしまった社会への反省です。一方、

暑かつた夏、多くの国民が節電しました。あの日以来、「経済優先、お金が目的の社会」から、「福祉優先、人間が目的の社会」を「ともに」という言葉を、私は今でも思ひ出します。即ち、iPS細胞は、製薬会社の開発競争によりその国が利益を独占するのではなく、iPS細胞の力を理解して、一人ひとりのモラルも高めること。研究体制は、熾烈な競争ではなく全員協力体制で。自分の生き方として、最後は人の役に立つて死にたい、といふ内容でした。極めて高い志と高潔な人柄に、大きな感動を覚えました。

西陣会が、地域住民とともに福祉優先、人間が目的の社会を創り出すために日々取り組んでおられる実践に励まされつつ、私もその一員として励みたいと、心新たにしています。

センター便り
糸
きずな

第166号

発行所

社会福祉法人
西陣会

HP: <http://www.nishijin.org>
E-Mail: nishijinkai@nishijin.org

〒602-8464
京都市上京区元誓願寺千本東入ル
TEL (075) 451 - 8971
FAX (075) 451 - 5700

発行者: 水上 雄一郎
編集責任: 浅田 将之

郵便振替口座
01030-5-23086

ホームページでも
ご覧になれます

当法人への寄付金は、課税控除対象となりますので、その為の受領書が必要な方はお申し出下さい。

西陣会のホームページが7月下旬頃にリニューアルします！



<http://nishijin.org/>

西館でースペースはございました。小学校五・六年生だった子どもたちも今では全員が中学生になりました。スペースにこではパソコン、DVD、音楽を聴く、ボーリング遊び、最近仲間入りをしたダーツで遊びながら過ごしています。遊びの中で子どもたち同士が話をし、関わり、とても賑やかで楽しい時間を過ごしています。時には喧嘩もありますが、自分の思いを伝えることで相手の気持ちも知ることができます。自分で、より関係も深まり、お互いの成長にも繋がると思うので暖かく見守ろうと思います。

スペースにこでは、少人数で過ごすので大人數が苦手な子にとつても働く親にとっても安心できる場所になりますのではないかと思っています。共働きをされるご家庭では送迎が難しくなりますが、学校や送迎場所までヘルパーが迎えに行かせていただくことでご家族のご負担も少しは軽減思っています。

障がいのある児童の支援

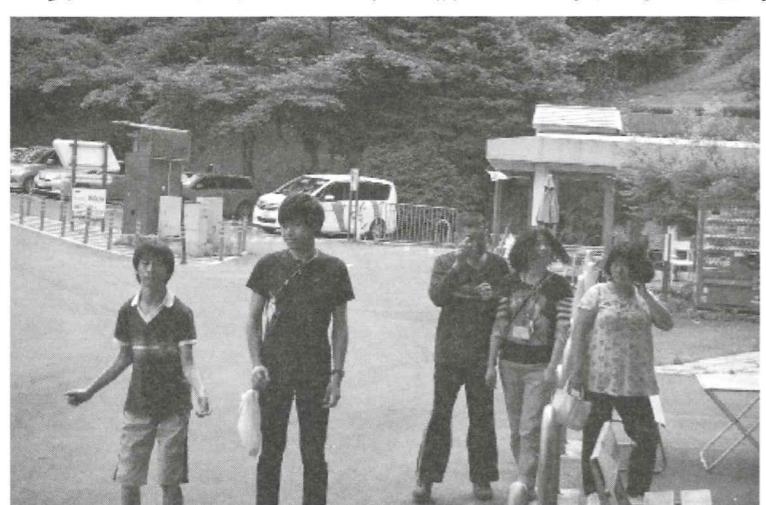
西陣会居宅サービス係

では、他にもタイムケア事業や放課後等児童デイサービスもありますが、ほほえみネットではヘルパーを使つて余暇支援をしております。少人数ということもあり、個々の希望やニーズに応えられることが強みであります。少人数といふことでもあります。少人数といふこともあります。少人数といふことがあります。また、今では全員が中学生ということもあり、今後も中学生の利用が増えてくるのではないかと 思います。「移動支援」で利用できる余暇活動で過ごし方に困っている方や今後も増えてくるであろうご利用者のニーズに少しでも応えていくこともこれから の役割であると思いま す。

ユーットリーダー 太陽と月

た。そのうちのお一人、この春支援学校高等部を卒業されたばかりの男性の方と、四月より一緒に活動させていただいています。

三月、もう卒業は決まっているけれど四月からの行き先がなく、一度実習させてももらえないかとの連絡が急遽学校より入りました。本当にもうすぐ卒業なのに……という思いもありながら実習の受け入れをさせていただきました。彼は実習で、当日、学校の先生が一緒にいるとはいえ、不安な気持ちでいっぱいのは明らかでした。「帰りたい」と訴える彼に対して、「お母さんが来るまで待ってね」としか伝えることができず、辛い思いをさせました。学校の先生と話し、前日に別の場所で実習されていましたこと、これまでの実習は一度は自己学されてから実習に臨まれていたこともわかりました。こんなにも準備不足で、これまでとは違った方法で実



宝ヶ池で運動（ディセンターふらっと）

（通称関西） 窓口にさせ て西陣会を ますもつ
て頂く東日 本大震災関 西障がい者 応援連絡会を
連）の皆様に、これまでの 福島支援に心より感謝を申 し上げます。

派遣された方はもとより、 その方の派遣後を守る法人・ 事業所内等の職員の方々、 見守り送り出して寂しい思 いをされている利用者の皆 様や地域支援に関わる地元 の関係者にも、派遣にご協 力いただき御礼を申し上げ ます。

迷いつつ、今日までの私 の関わりを振り返り、綴ろ うと思います。

私は東日本大震災後、す ぐに現地に出かけたかったの ですが、被災が太平洋岸に 面する複数の都道府県にま たがる大規模な状況にあり、 どこから何に関わればよいか の見極めをとつさにしていた ことを思い出します。

こうした事態での行動に は、すぐに動く人・何を重

要視するか少し事態を見極める人・いつでも要請があれば動けるよう準備をする人……いろんな立ち位置が混在し、連携するための調整機能が不可欠だと思っています。

支援のきつかけは、伝手（つて）でしょう。

伝手とは、「気になる人の存在であり、ある意味で強く思い入れが加わる部分です。

人という存在はとてつもなく大きいに対して、なそうとする我が身一つしかないちつぽけな存在なのです。私の伝手は、福島県いわき市にあるいわき福音協会に所属する本田隆光さんでした。

本田さんが東北でも数少ない地域生活移行支援（当時の入所施設から地域生活への移行）実践者であることは良く承知していましたし、我が国の地域生活移行実践と共に、地域で暮らすための要素の一つ「働く」社会の一員¹¹「存在の意義」を丁寧に展開してきた尊敬する人です。

東日本大震災後の押し寄

せる津波や翌日に発生する福島第一原発一号機、翌々日の三号機の水素爆発と全国LIVEで放送され、TVの前に釘付けになりますんでしたか？

そのライブ感覚が、以後私の福島支援の根拠（いざ）と言う時、その情報は最も知りたい人や最も現場の近くにいる人達には伝わらず、遠く離れた外から映画を見るかのようなもどかしさの中で、多くの人がPTSD状態（近くにいた人たちは絶望感と喪失感、外にいた人々は無力感と罪悪感にさせる）になり、払拭しようともがいています。

支援には直接支援と間接支援がありますが、直接支援にも様々な方法があります。現地に出向く直接支援と、その場所から避難した人たちを支える直接支援でしようか。

後者の方法で長野県駒ヶ根市にあるコロニー西駒郷の地域生活移行によって閉鎖した入所施設をクリーニングし、七十数名の地域生活移行者を震災後二週間して迎えました。

付き添う職員は数名。スタッフを補うためにここでも伝手を活かし、すぐに呼応してくれたのが末期がんの廣瀬明彦ですし、柵（しがらみ）を意識しない全国の友人たちでした。

大変不謹慎ですが、この未曾有な出来事は廣瀬も私

「通常ではない状態であつても、当該者が選択出来る機会を省いてはならないとする鉄則を支援者は貫かなければなりません。つまり、最も弱い立場にある人たちの意思を阻害してはならないのです。いわき市のグループホームの状況・支援する世話人さんの状況・職場の状況・家族の状況等々をビジュアルで分かりやすく伝える労を惜しんではいけないので。」

何年も付き合つて勝手に息巻いても、彼らはいわきに戻り、寂しくなつた私は余震におののく彼らを訪ね、そして現在の役割のご縁を頂き、いまも「そばに居る」のです。

何と未練がましく、どうしようもないおつさんなのです。

あれから五年。

国連から難民と表現された浜通り（太平洋岸に接する市町村）から避難した人々は、今もじわりじわりと戻り（移動）続け、移動先で新たな土地と建物を確保し、住民票は異動していらないものの、実質的な住まいは県内バラバラに分散さるのです。

その中にボツリボツリと存在する障害のある人たちの所在確認・ニーズ整理・安心できるサービス基盤の整備にと、地域アドバイザーと共に支援体制を整え続けています。

関西連の皆さんには、帰還を促す浜通り市町村での支援体制づくりに特化して取り組んでいただいています。この帰還の言葉は、多くの三世代家族の分散も促すのです。

目に見えない放射能におびえながら暮らして……ではなく、気にしつつも今を生きることに直視し、少しでも安全な地域での子育てをさせたいとする世代と、除染の言葉に背中を押され、住み慣れた土地で残りの人生を送ろうとする高齢化世代にと。

にわかに発生する高齢化率一〇〇%に近い、最近の言葉での限界集落が発生するのです。それが今の福島県の現実です。

問われる、生きるとは。自問自答し続ける、支援とは。時折襲うPTSDは、「生きる」を支える心の深層部分をえぐるのです。

安心してください。どんな状態でも、人は希望を見つけようとします。

私は、巡る季節の移ろいと、根を下ろした植物の彩りです。そこに希望を見つけるのです。

今年四月より、障害者差別解消法が施行された。この法律は、障害者権利条約を守るため国内法の整備が求められたことより制定された法律とされている。多くの法律と同様に、法律制定により目的が達成されることはなく、法律ができることはスタートを意味する。つまり、今この社会は障害のある方への差別が存在しているのである。

では差別解消法は、どのようなものなのかという点であるが、法律では差別を「不当な差別的取り扱い」「合理的配慮を欠くこと」としている。また行政機関等には、両方を義務として禁じ、民間事業者には前者を義務として、後者を努力義務として禁じている。なお罰則規定はない。相談窓口であるが、行政が行う事務・事業の差別に関する場合は、京都市の場合、行政の当該事業部署となっている。しかしながら直接相談しにくい状況が想定されるため、障害保健福祉推進室も窓口となつていて、また民間事業者における差別の相談窓口は、京都府の条例にて設置されている広域専門相談員（京都府障害者支援課内）とさ

障害者差別解消法

センター長 土屋 健弘

たミナテラスは、元々、情報交流館（図書館等）であつたので、いくつかの部屋があり、報道で流れているような大広間に全員が雑魚寝をしているという状況ではなかつたが、生活をしている約百五十人に十分なスペースが与えられている訳ではなく、入り口付近や廊下に毛布一枚敷いて寝ている人も多く居た。一ヶ月を越す避難生活のために、心身共に疲労を抱えている方が目についた。



熊本県益城町 総合体育館と野外テント

私は、娘が西陣会にお世話になつていていたご縁で「となり」設立の年から、週一度夕食を作りに行かせていただいています。

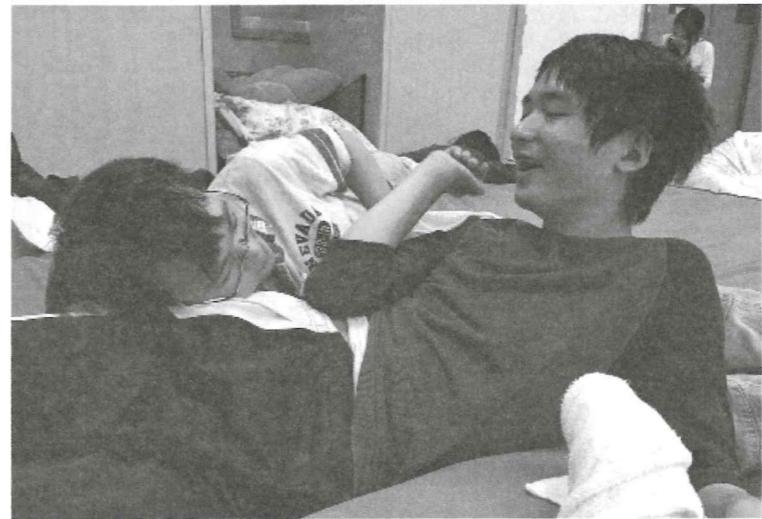
お話をあつた時、私は西陣会の建物に入るのがつらい時期でした。娘がいない事実をはつきり認めざるを得ないからです。お断りして支援していただいた恩恵があるもので、思い切つて抜け出した時も、寄り添つて受けました。顔見知りのメンバーさんもおられて、元気にしておられるご様子やおいしそうに食事して下さることで、私自身が励ましているうち、三年が過ぎました。

職員の皆さん、一人一人のメンバーさんの個性に応じて、食材や食べるスタイルなどに気を配つておられることに接することも、嬉しいことです。これからも職員の方と一緒にメン

娘が西陣会にお世

今回は普段「西陣会ホームページ」となりの世話人（調理や掃除、入居者さんとの相談等が主な業務内容）として従事している二名の原稿になります。「ショートステイゆう」利用者や職員分も含め、毎食十食前後を愛情込めて作つて下さっています。

私が「となり」の調理に入らせて頂くようになり、地のいい環境を作つていけたらと思つています。



放課後のまつたりタイム（タイムケア事業「ういす」）

でも一人で食事をする人が多くなつたと言われる昨今、アニメのサザエさんや寺内貫太郎一家のように家族一同が揃つて食事を摂る事は今や遠い過去の一シーンとなつてしましました。でも仲間と一緒に食事をする、

サービス等利用計画を通して

所長寺田

文

平成二十四年四月の改正障害者自立支援法施行により、障害福祉サービス等ご利用の方を対象に「サービス等利用計画」の作成が求められるようになりました。生活全体の課題や目標を踏まえ、最も適切な福祉サービス等の組み合わせを検討・作成するもので、福祉サービスの支給決定において提出が必要とされています。相談支援事業所きずなは、平成二十六年一月に開所しました。現在約三十名の方の計画作成やモニタリングを行っています。これまでに、定期的な計画作成以外にも、入院や転居、新しい支援提供事業所を探す等を行つてきました。

新しい事業所を見つける等の調整時に、自身が担当している事業（法人）への調整を優先しがちになりやすい事等は注意すべきと感じています。その調整がご利用者・ご家族にとつて最も適切な調整であれば良いのですが、相談員にとつての調整のしやすさのみが優先されると、ご利用者にとつて有益にならない可能性もあると感じています。

そうならない為にも、情報収集・把握や様々な社会資源との繋がりという部分は、大切且つ、まだまだ足りていない部分だと感じています。地域での暮らしさは、福祉サービスだけを使って生活している訳では無いと思います。医療・教育・福祉等の様々な領域が整う中で、安心して暮らす事が出来るのだと思います。また、人との出会いや趣味等を通じて楽しく暮らす事が出来るのだと思います。

サービス等利用計画といふツールを通して、一人ひとりが地域で安心して楽しく暮らす一助が出来るようにしていきたいと思います。

19 日	18 日	16 日	13 日	12 日	11 日	10 日
役員等研修会および指 (講師: 東社労士) 新任職員研修 一次選考	事業所見学説明会 新任職員研修 (講師: 水上理事長) 法人監事監査	人事育成検討委員会 まとめの座談会 施設長研修	2015年度相談係 事業所見学説明会	月曜集会 事業所見学説明会 一次選考	外部監査 総務委員会	5月 9日 法人会計

 5月	28日 出前児童館	24日 佛教学院ボランティア 募集ブース出展 (鬼塚・松井)	20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日 31日	15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日 31日	8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日 31日	4月
地域の子 育て支援の場へ の職員派遣 (今年度も定期的に実施)	学童クラブ入部式 地域の高齢者施設との交流活動(今年度も定期的に実施) パレード♪スタート	びこびこクラブ発会式 ぱこ・あ・ぱこ発会式	第一プロツク ク児童館学童保育所まつり	第二プロツク ク児童館学童保育所まつり	第三プロツク ク児童館学童保育所まつり	第四プロツク ク児童館学童保育所まつり

25日	上京区障 がい児者支援 ねつとわく (以下上京ねつと)運 営委員会(永瀬・高田)	4月	25日	上京区障 がい児者支援 ねつとわく (以下上京ねつと)運 営委員会(永瀬・高田)
25日	G H意見交換会	5月	1日・14日・29日	京都市居宅介護等事 業連絡協議会総会
23日	G H意見交換会	6月	1日・14日・29日	日本グループホー ム学会沖縄大会
27日	(浅田・宮崎・赤尾・森) 上京ねつと総会	25日	25日	ヘルパー研修会
25日	G H意見交換会	25日	25日	
10日		16日	1日・14日・29日	
10日		23日	1日・14日・29日	
25日		25日	1日・14日・29日	
25日		25日	1日・14日・29日	
25日		25日	1日・14日・29日	

19 日	5 月	9 日	左京区介 護事業者連絡会
16 日	京都市居宅 介護事業連絡協議会		
基幹支援セントナース キルアップ研修			
25 日		28 日	左京区地域ケア連絡 協議会防災部会 市社協日常生活自立 支援事業審査会 北部自立支援協議会 児童部会研修会 障害支援区分審査会
18 日			

6月		1日	自立支援協議会総会
8日	医療的ケア部会	16日	上京ねっと総会
10日	相談支援専門員カフエ	16日	相談支援専門員スキ
11日	ルアップ研修	22日	福島派遣
22日～7月2日	福島派遣	22日～7月2日	福島派遣

西陣児童館

【居宅サービス係 西陣会ホームページとなり(GH)】

【きりっしんぐ】

【居宅サービス係】
【西陣会ホームとなり(GH)】

30日
避難訓練
36日
共有會議
利用者率
6月

活動日誌

5 23 22 21
日 日 日
導監査等説明会(浅田)
西陣会交流歓迎会
理事会・評議員会
月曜集会

31
（公社）京都市児童館
学童連盟定期総会・
懇親会（中山）

〔ティセンターフル〕
4月
22 20
日
見学者1名
西陣会ふら

4月 14日 基幹支援
センター会議

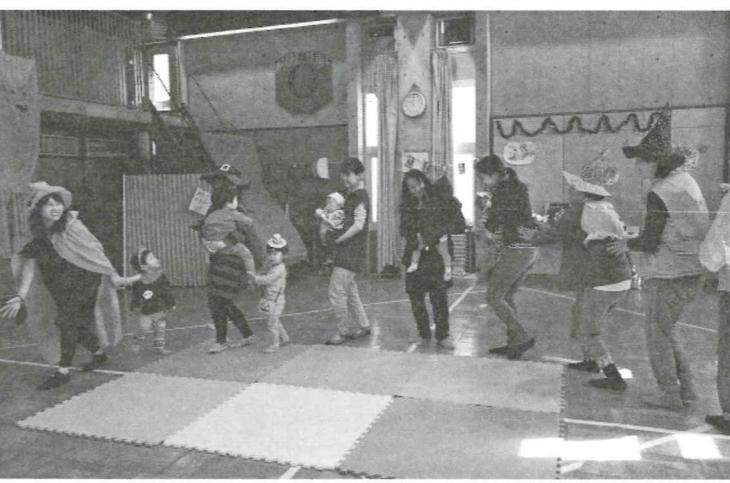
【ディセンターフリット】		4月		5月		6月	
30日	避難訓練	25日	京都府団体指導	20日	西陣会ふらヴィジョン 総会	19日	見学者3名 共有会議
30日	利用者申込 共有会議	25日	京都市団体指導	20日	西陣会ふらヴィジョン 総会	19日	見学者2名 京都府チャレンジ事業研修（上杉）
26日	見学者1名 ヴィジョン役員会	26日	西陣会ふら ヴィジョン役員会	22日	生活介護 等連絡協議会 （本林・五十嵐）	17日	見学者1名 京都府チャレンジ事業研修（上杉）
26日	見学者1名 京都府チャレンジ事業研修（上杉）	22日	西陣会ふら ヴィジョン役員会	10日	立支援協議会 待防止部会	13日	京都府自立支援協議会 北部自立支援協議会 全体会議
28日	北部自立支援協議会 支援センター部会	30日	基幹支援センタース キルアップ研修	22日	基幹支援センタース キルアップ研修	1日	京都府市自立支援協議会 京都府市自立支援協議会 待防止部会
30日	中京区産業労働局 セントラル会議	30日	平成28年度京都府虐待 防止・権利擁護研修	14日	基幹支援 センターハウス	1日	京都府市自立支援協議会 京都府市自立支援協議会 待防止部会

二月に第三子を出産し、三人の男の子の母となつた私は、かつて、結婚を機に退職して京都へとやつて来ました。新生活に上々気分でいたのも束の間、夫以外に頼れる人がいなかつた私は、誰とも会話することなく一日を終えることも少なくなく、社会から孤立して取り残され、不要な人間なのではと錯覚して落ち込むことさえありました。この状況を変えてくれたのが、子どもの存在です。

妊娠をきっかけに産院や保健センターと繋がりがあり、妊娠仲間ができ、見知らぬ方から声をかけていた。産後は親子で楽しめる場を求めて様々な場所へ出向きましたが、その一つが西陣児童館でした。職員の皆さん

がいつも優しい笑顔で温かく声をかけてくださり、すっかり居心地がよくなつた今では、親子四人で利用させていただき、心の拠り所となつています。また、長男

が〇歳の時から参加してい
る、この児童館を拠点にし
た育児サークル「あつぶつ
ぶ」との出会いは、私にとつ
てとても大きなものでした。
育児中の母親が主体のこの
サークルは、主催者^{II}参加
者の形をとり、子
どもと一緒に樂
しめることが、親子
がリフレッシュユ
でできることを考
えて活動されて
いました。なか
でも、できる人
ができるることを
やつてみようと
取り組み、周りの
方がサポートし
ながら進めてい
く姿がとても印
象的でした。サー
クルが作られた
意図に賛同して
先輩ママさんの
卒業と同時に中
心的な立場で活
動させていただ
くようになつて
からは寺^ニ、中



みんなでハロウィーン大行進♪ (西陣児童館)

「子どもが獨立してくれた喜び」

西陣兒童館

間とともに子どもの成長を見守りながらも、どのようにして親が子どもと一緒に楽しめるか、孤立せずに過ごせるか、有益な情報を共ができるかを考へ、試行錯誤を重ねながら企画、運営しています。

タイムケア事業もいよいよ来年度で十周年を迎えます。二〇〇七年六月に始まった就労支援と、地域生活支援、健全育成等を目的として始まりました。

開所当時の障がいのある中高生の放課後支援は、まだ発展途上でした。使えるサービスも限られている状況の中で、このタイムケア事業というものは、先駆的な働きで注目されていました。京都市の委託事業として開始し、利用当初からそのニーズは非常に高いものがありました。

そして、十年近くの歳月が過ぎ、現在の障がいのある中高生を取り巻く放課後の過ごし方には、多様な在りかたがあります。使えるサービスが増えることは、利用者にとっては、それだけ選択の余地が増えるということであり、放課後の生活スタイルに幅ができました。ただ、事業所の観点からは、自分たちの特色を出していかねばなりません。

所長宮崎一弥 市内四か所のタイムケア事業において、連絡会が去年より立ち上がり、そこで議論に、私たちの今後の在り方とは? ということについて、話し合っています。小学校の空き教室を利用しての地域に根付いた支援、利用希望があればどのようなケースであっても受け入れていく、京都市の委託事業として根本にあるその想い。そして、その時代に応じた、より利用しやすいタイムケア事業を目指し、現状に甘んじることなく、前向きな変化を加えていくこと。そのようなことを連絡会では話し合って、今後の在り方を模索しています。

そして何より私たちは、西陣会のタイムケア事業です。法人の理念に基づいた働きを忘れずに、支援が必要としている目の前の「その人」こそ大切にします。そして、今でできることを考え、タイムケア事業を通して、理念の具現化を目指していきます。

地域における公益的な取り組み

上京消防団嘉楽分団

京都市民福祉センター 館長 浅田将之

京都市民福祉センターは
京都市上京区の嘉楽学区内に
あります。

地元学区の消防団の方からお誘いを受けて、昨年度より職員が入団させていた四名の計六名の職員が様々な活動に参加させていただいております。学区内にお住まいの方々をはじめ、上京区内にお住まいの方への安心、安全に寄与できればと考えております。

さて、その消防団で好天の五月二十二日、京都御苑富小路グラウンドにおきまして上京消防団総合査閲がありました。

この日を迎えるまでは、仕事の後に嘉楽中学校のグラウンドに集まり、優しく、厳しく、先輩方や消防署員の方にご指導いただきながら、交流を深めながら慣れない訓練をしてまいりました。査閲当日は十七分団二三四名の団員が日々の訓練の成果を披露する機会です。分団長の指示で行動する通常点検、行進訓練と、各分団四名一组で行なう消防訓練（ポンプ操作）がありました。また一年間の巡回活動や稼働状況等の実績等も総合

京都市民福祉センターとして行なう活動には皆様からいただいた寄せ金の一部を充当させていただいている。



後日送られてきたメダルと賞状ゲットしました！

して評価された結果、嘉楽分団は実質四位という結果になつたそうです。

地域住民の方々と一緒になつて汗を流し、必要とされる働きをして、お役に立てることで、仲間に入れていただけた実感をもつております。感謝しております。

西陣児童館、ディセンタビス係、西陣会居宅サービス係、西陣会ホームとなり、ショートステイゆう等を利用されている方たちだけではなく、西陣会がこの地域にあることを地域住民の方々に喜んでいただける社会福祉法人でありたいと願っております。

地域のニーズを受け止めながらできることから対応し、誰もが安心して、安全に暮らせる地域社会を住民の皆様と創っていきたいと思います。皆様今後ともよろしくお願いいたします。

グループラン第一位

地域活動支援センターふらつと

鬼塚義正

Y M C A 主催のイベント第十二回インナーナショナル・チャリティーランに個別にお誘いした人たちと参加しました。

例年、めいぶるワイスメンズクラブの皆様のご厚意で参加させていただいました。グループで走るグループに出走し、運よく(?)規定タイムに近く、今年なんと一位を獲得！賞状にメダルもいたくことができました。走った皆様お疲れ様でした。

センター往来

◎ 5月22日(日)理事会・評議員会(2015年度決算報告などについて)を開催しました。

同日理事会にて、嘉楽学区社会福祉協議会会长の交代に伴い、西陣会評議員の中西英輔様が退任され喜多泰弘様が就任されることが承認されました。

京都府災害派遣福祉チームとして職員2名を熊本県益城町に派遣。

○ 西陣会居宅サービス係
〒601-18464
東入る元四丁目四三〇番地の三
TEL(075)451-15700
FAX(075)451-15700

○ 被災地支援物品販売の報告
。 4 / 10
。 4 / 23
。 めが！ 千本100円商
。 西陣マルシエ
。 宇川 征宏(班長として)

○ 西陣会居宅サービス係
〒601-18464
東入る元四丁目四三〇番地の三
TEL(075)451-15291
FAX(075)441-15291

○ デイセンターふらつと
西陣産業会館1F
TEL(075)427-1630
FAX(075)451-13619
。 京都市中部障害者地域生活
支援センターにじん
〒601-18426
京都市左京区西堀川通元誓願寺
上ル堅門前町四一四
TEL(075)427-1630
FAX(075)451-13619

○ 京都市北部障害者地域生活
支援センター
西陣産業会館1F
TEL(075)427-1630
FAX(075)451-13619
。 西陣会ホームとなり
〒601-18464
京都市左京区淨寺上馬場町一七一
ファーメスト白川通一階中
TEL(075)751-1010
FAX(075)751-1010

○ ショートステイゆう
〒601-18464
京都市上京区元誓願寺通り千本
東入る元四丁目四二四番地
TEL(075)468-13618
FAX(075)441-15291

社会福祉法人 西陣会

○ 法人本部
○ 京都市民福祉センター
○ 地域活動支援センター
○ ふらつと
○ 地域生活支援事業
○ レスピクトサービス
〒601-18464
京都市上京区元誓願寺通り千本
東入る元四丁目四三〇番地の二
TEL(075)451-18971
FAX(075)451-15700

住所変更のある方、当機関誌のご不要な方はFAXにて(075)451-5700迄ご連絡下さい。

職員人事(常勤職員)

退職

法人本部
守岡美知子

(16年5月6日付)